

---

カエル！ジャパン通信 Vol.217 令和5年10月16日

発行：内閣府 仕事と生活の調和推進室

---

<<<今号の目次>>>

1. コラム 想像力と共感力で描くワーク・ライフ・バランスの考え方

2. 最新情報

《お知らせ》 1件

《地方公共団体等の動き》 12件

---

## ■□■ 1. コラム ■□■

想像力と共感力で描くワーク・ライフ・バランスの考え方

---

加藤恭子さん

芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授。学習院大学経済学部経済学科卒業。海外経済協力基金勤務後、ミシガン州立大学労使関係学部で博士号取得。研究テーマはワーク・ライフ・バランス、リズムとチームビルディング、イノベーション教育、イノベティブ人材の育成など。

---

ワーク・ライフ・バランスと聞くと、男性の育児休業取得や、子育て支援がクローズアップされることが多いですが、全ての人にとって働きやすい職場が目指すべき姿です。今回は組織内におけるワーク・ライフ・バランス推進についての考え方を加藤恭子さんに伺いました。

### ◆「自分ごと」で考える難しさ

男性のワーク・ライフ・バランスを研究の対象として10数年が経ちますが、男性のワーク・ライフ・バランスが未だ職場の特定の人々の問題であるかのように捉えられていることが気になっています。企業として向き合うべき問題ではあるけれど、「他の誰かの問題であり、自分は対象ではない」と考える方も少なからずおられるのではないのでしょうか。そして、実はこれがワーク・ライフ・バランスの最も根本的な課題であると考えています。

また、男性も女性も「親」として制度を利用する点に変わりはありませんが、育児休暇一つをとってみても、男性特有の事情や背景などが考慮されているのかと考えた時に、まだ改善の余地が多くある制度が多く見受けられるようにも思えます。

男性の育児休業取得について、女性と同様、取得しやすい職場環境づくりが大切ですが、周囲の理解や認知の向上を考える時には「デザイン思考」が役に立ちます。デザイン思考では、「対象者の立場に立って考え、感じ、行動する」プロセスを、「共感：エンパシー」と呼び、全てのプロセスに先んじて実施すべ

きとしています。自分とは異なる人々の気持ちや思考、行動を徹底的に想像する機会を作ってみることが、職場でのワーク・ライフ・バランスに対する理解や認知の向上に向けた第一歩になるのではないのでしょうか。

また、人材育成の観点から、社員の共感力を高めたり、共感力の高いリーダーを育成することも組織として重要です。EI（エモーショナル・インテリジェンス：EQともいう）という指標は、自分や他人の感情を認知し、マネジメントできる能力を表しますが、EIの測定を通じて社員の共感力や職場の共感（エンパシー）の度合いを可視化することができるかもしれません。

#### ◆社会の意識変化とともに…

育児を含めたワーク・ライフ・バランスに対する考え方は確実に変化しています。例えば、内閣府の「少子化社会に関する意識調査（平成30年度※）」によると、回答した20～49歳の結婚意向のある未婚者はどの世代でも60%以上が夫婦共に働くことを希望しており、既婚者も含め約45%が、家事・育児は妻も夫も同様に行うものであると回答しています。

共働きや家事・育児を夫婦で分担する意向が高まっている中、育児する男性のみ、あるいは育児をしながら働く女性だけに光があたり、そうではない生き方が尊重されなくなることはあってはなりません。大切なのは、特定の世代やグループのワーク・ライフ・バランスだけでなく、全ての社員のワーク・ライフ・バランスが尊重される職場環境を構築することなのではないでしょうか。この目標に向かって企業ができることは何か…それは、きっと「あなたにとってのワーク・ライフ・バランスとは？」を社員一人ひとりがとことん考える機会を提供することであるような気がします。

小さい頃に作った「やじろべえ」を思い出してください。やじろべえの支点は常に同じではなく、作った人や作り方によって異なります。ワーク・ライフ・バランスも同じです。社員だけでなく、企業としての最適な「バランス」を見つけるため、各々の職場における制度と風土の両方から活用を後押ししていくことが大切です。

※内閣府「平成30年度少子化社会対策に関する意識調査」（P72、P87参照）

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h30/zentai-pdf/index.html>

---

## ■□■ 2. 最新情報 ■□■

---

《お知らせ》

【厚生労働省】

「不妊治療と仕事との両立支援担当者等向け研修会」をオンラインで配信します（視聴無料）

これまでキャリアを積んできた女性社員が、不妊治療と仕事との両立に悩んで離職してしまうことは、企業にとって大きな損失となります。女性の管理職を育成し増加させる取り組みを進めるためにも、不

妊治療と仕事との両立支援は重要な課題です。また、不妊治療は女性社員だけでなく、男性社員も対象になります。

研修会では、行政、産婦人科医、産業医、社会保険労務士、当事者を支援するコンサルタント等の立場から不妊治療と仕事との両立を推進していくための具体的ノウハウや留意点等を解説しています。

これから不妊治療と仕事との両立を支援する制度を導入しようとしている企業の皆さまはもちろん、既に制度を導入し、よりよい運用を検討している企業の皆さまにも参考になる内容です。

不妊治療と仕事との両立のサポートに積極的に取り組む優良企業を認定する「プラス認定」（次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定」に追加された認定制度）を取得する際の要件の一つである「企業内研修」としてご利用いただくこともできます。

皆さま、ぜひ「不妊治療と仕事との両立支援担当者等向け研修会」にご参加ください。

**【研修の詳細、視聴申し込み】**

<https://www.funin-ryoritsu.jp/>

《地方公共団体等の動き》

各事業の詳細はそれぞれの地方公共団体にお問い合わせください。

**【青森県】**

今年もアピオあおもり秋まつりを開催します！

アピオあおもり秋まつりは、誰もが自分らしく生きられる「男女共同参画社会」について、県内の活動団体の方々とともに、学び、考え、語り合う場として開催します。出展団体によるワークショップ・飲食物販売・パネル展示・フリーマーケットなどのブース出展のほか、キッチンカーも出店予定。イベントホールプログラムでは「男女が結婚に求めるものって」をテーマにした講演があります。

日時：令和5年11月11日（土）9：30～15：30

場所：アピオあおもり

[http://www.apio.pref.aomori.jp/gender/event/apio-aomori-autumn-festival/festival\\_2023\\_098/](http://www.apio.pref.aomori.jp/gender/event/apio-aomori-autumn-festival/festival_2023_098/)

**【宮城県】**

令和5年度「男性の育児休業取得促進セミナー」を開催します。～第2回 教えて！イクメンの星 育児休業の取り方・過ごし方～

今後、育児を担う学生や若手社会人が「育休の取得は難しい」「育休を取得したい」と思えるよう、育休取得のメリットや心構えについて、実際に育児休業を取得したイクメンの星（厚生労働省が選定したイクメンのロールモデル）の体験談を交えて、紹介します。また、令和5年4月に改正育児・介護休業法が全面施行され、男性向けの新たな育児休業制度が制定されるとともに、企業における新たな義務が設けられています。これらの新制度についてもわかりやすく解説します。

日時：令和5年10月26日（木）17：00～18：30

開催方法：オンライン開催（Zoom WEB セミナー）

対象者：学生や若手社会人を始め、男性の育児休業に関心がある方等、どなたでも参加いただけます。

定員：300名 ※先着順

参加費：無料

申込方法：Web

[https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/r5\\_danjyo\\_seminar1.html](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/r5_danjyo_seminar1.html)

### 【福島県】

「イクボス式」マネジメント講座 ～経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス～

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司のことです。そして、会社だけではなく、学校やNPO等の団体などの組織運営や個人の育成にもつながる考えです。当講座では、自分たちの組織に合った効果的な働き方の見直し等についてお話しいただきます。

日時：令和5年11月2日（木）13：00～15：00

開催方法：オンライン開催

対象：企業や団体の代表・管理職、学校やPTA関係者等

定員：50名

受講料：無料

申込方法：Web、郵送、FAX又は持参

申込締切：令和5年10月31日（火）

<https://www.f-miraikan.or.jp/2023/08/post-402.html>

### 【栃木県】

男性のワーク・ライフ・バランス講座 ワーク・ライフ・バランスを実践しよう！～家庭は大事。仕事も大事。～

ワーク・ライフ・バランスの実現と「男性は仕事、女性は家庭」という固定的性別役割分担の問い直しは、男性の生きづらさ解消の鍵です。ひとりひとりが生き生きと生活を送るために、性別にかかわらず、仕事・地域・家庭生活の責任を分かち合うことの大切さを考え、学んでみませんか。

日時：令和5年12月2日（土）13：30～15：30

開催方法：オンライン開催（Zoom）

対象：どなたでも ※女性も参加いただけます。

定員：80名 ※先着順

参加費：無料

申込締切：令和5年11月23日（木）

[https://www.parti.jp/kouza/index\\_kou02-1.html](https://www.parti.jp/kouza/index_kou02-1.html)

### 【東京都】港区

港区ワーク・ライフ・バランス シンポジウム

J-Win 内永氏 基調講演「経営戦略としてのダイバーシティ & インクルージョン～多様な価値観を受け入れ企業文化を変革するには～」

WLB の必要性は理解しつつも、取組が進まないことはありませんか？本シンポジウムでは、「慣習」か

ら WLB について考えます。関心のある方、どなたでもご参加いただけます。

日時：令和5年11月15日（水）15:00～17:00（開場14:45～）

場所：港区立男女平等参画センター1階 リーブラホール

対象：港区内の企業経営者、管理職、人事・労務担当者、またはテーマに関心がある方

定員：60名（先着順）。（一時保育：対象4カ月～未就学児（定員あり・申込順）11月1日（水）までに要予約）

参加費：無料

申込方法：Web

<https://www.minatolibra.jp/events/course20231115/>

### 【静岡県】

未来志向の経営戦略 多様な働き方導入セミナー <テーマ：アンコンシャスバイアス・女性活躍・男性育休>（オンライン）

働く意欲のある誰もがいきいきと働くことができるよう企業側での働き方の見直しや柔軟な職場環境づくりが求められています。

本セミナーでは、専門家と先進企業の事例から、多様な働き方の重要性とその実現のヒントを学びます。テーマは「アンコンシャスバイアス・女性活躍・男性育休」です。自社における環境づくりの道筋を明確にし、社員の意欲と生産性を最大限に引き出すための戦略的なアプローチを考えましょう。

日時：令和5年11月20日（月）13:30～16:20

開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

対象：静岡県内企業の経営者、人事労務管理者・担当者、その他

定員：60社 ※定員となり次第、締め切らせていただきます。

参加費：無料

申込方法：Web 又は FAX

申込締切：令和5年11月17日（金）17:00

<https://www.azarea-navi.jp/event/r51120/>

### 【愛知県】

～中小企業女性活躍推進モデル事業～ 女性活躍の課題や秘訣（ひけつ）、取組事例を紹介する冊子「女性が活躍すると会社も輝く！」を作成しました

愛知県では、「女性が元気に働き続けられる愛知」の実現に向けて、平成25年度から「あいち女性の活躍促進プロジェクト」を推進しています。今年度、その一環として、中小企業女性活躍推進モデル事業を実施し、中小企業の女性活躍推進の参考となるよう、女性活躍の課題や秘訣、取組事例を紹介する冊子「女性が活躍すると会社も輝く！」を作成しましたので、お知らせします。今後、企業の皆様の女性活躍推進に本冊子を是非、御活用ください。

入手方法：

・愛知県県民文化局男女共同参画推進課、豊橋市市民協働推進課、西尾市地域つながり課、大府市子ども未来課などで配布

・郵送での配布 ※郵送料は各自での御負担となります。

料金：無料

<https://www.pref.aichi.jp/press-release/kaisyamokagayaku.html>

#### 【滋賀県】

G-NET ほっとセミナー・イクボスセミナー「選ばれる会社になるために」～人に優しく成長できる会社にするには～

男性育休の取得を推進したい！人をたくさん採用したい！若い世代にバトンタッチしていきたい！でもどうすれば……。 「少ない従業員数で男性育休の取得を推進するには？」といった課題に対する具体的な解決策を、御参加の皆様「声」に耳を傾けながら、講師と共に探っていきます。『労使ともにやさしい会社づくり』の実現を目指して！是非御参加ください。

日時：令和5年11月9日（木）14：00～16：00（受付 13：30～）

場所：滋賀県立男女共同参画センター“G-NET しが”研修室 BC

※Zoom オンラインでの御参加も可

対象：どなたでも

参加費：無料

定員：会場 30 名、Zoom 50 名

申込方法：メール、FAX 又は電話

申込締切：令和5年11月2日（木）

<https://www.pref.shiga.lg.jp/g-net/seminar/307805/314130.html>

#### 【京都府】

啓発冊子『男女共同参画通信』がオンラインで注文できます！

男女共同参画やジェンダーにまつわる気になるトピックスをわかりやすく紹介する啓発冊子『男女共同参画通信』。通算 50 号を超える人気冊子の【オンライン注文】がスタートしました！冊子代無料&送料のみ御負担で全国に発送します。情報をコンパクトにまとめた一冊は、家庭や職場、学校などでの研修・学び直しにぴったり。ぜひ御利用ください。

料金：無料 ※郵送料は各自での御負担となります。

<https://www.wings-kyoto.jp/topics/tp-sankaku2207.html>

#### 【兵庫県】

イーブン 30 周年・次世代向け男女共同参画セミナー「人生 100 年時代を生き抜くためのキャリア形成とジェンダー平等について考える」の映像配信について

これから就職や起業等をしようとお考えのより多くの皆さんに、ジェンダーに関連した立ちどころの壁の乗り越え方のヒント等をお伝えします。大学生の取組事例も参考に、人生 100 年時代を生き抜くためのキャリア形成とジェンダー平等の実現のために、すべきこと、できることを考えてみませんか。

配信期間：～令和5年10月末

開催方法：録画映像の配信

申込方法：不要

<https://hyogo-even.jp/seminar/new%e3%80%90%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85%e3%80%91%e3%82%a4%e3%83%bc%e3%83%96%e3%83%b330%e5%91%a8%e5%b9%b4%e3%83%bb%e6%ac%a1%e4%b8%96%e4%bb%a3%e5%90%91%e3%81%91%e7%94%b7%e5%a5%b3%e5%85%b1%e5%90%8c.html>

### 【高知県】

家事男（カジダン）料理教室～料理初心者の男性集まれ～

日頃料理に親しみのない男性の皆さん！仲間と一緒に料理に挑戦してみませんか。レストランで食べるような気取った料理ではなく、ちょこっと作って食べてみようと思う家庭料理です。プロの調理師が丁寧に説明しますから、料理初心者でも大丈夫ですよ。さあ、一步踏み出しましょう！

日時：令和5年11月26日（日）10：00～13：00

場所：こうち男女共同参画センター「ソール」4階 調理実習室

対象：男性

定員：16名 ※先着順

参加費：2,000円（材料費含む）

申込方法：電話

申込開始：令和5年10月21日（土）9：00～

<https://www.sole-kochi.or.jp/info/dtl.php?ID=2074&routekbn=S>

### 【佐賀県】

令和5年度 地域で活躍する女性のためのセミナー「はじめの一步 ～できることからはじめよう～」地域や社会の中で、「女性はこうあるべき」「男性はこうあるべき」のような考え方にモヤモヤしたことはありませんか？このような思い込みから自分にブレーキをかけていたことに気づき、ちょっと行動を起こしてみることで、あなたも地域もよりよくなるかもしれません。あなたらしい「はじめの一步」を一緒に考えてみませんか。

日時：

第1回 令和5年10月22日（日）13：30～16：00（講義、ワークショップ）

第2回 令和5年11月11日（土）13：30～16：30（トークセッション・ワークショップ）

第3回 令和5年11月25日（土）13：30～16：00（講義、ワークショップ）

場所：アバンセ 4階 第3研修室

対象：

- ・佐賀県内に在住、在勤、在学の方
- ・原則、全講座に参加できる方

※全講座に参加が難しい場合は、希望の回のみ参加も受け付けます。

定員：20名程度 ※先着順、定員になり次第締切

参加費：無料

申込方法：Web、FAX、メール、電話又は窓口

[https://www.avance.or.jp/danjyo/\\_2790/\\_5739.html](https://www.avance.or.jp/danjyo/_2790/_5739.html)

---

#### 【編集後記】

令和2年度の内閣府の意識調査(※)において、「育児と仕事との関係で理想の生き方」を聞いたところ、日本では、「子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が51.8%、次いで「子供は持つが、子供の成長に関係なく働き続ける」が25.8%という結果になり、いずれも子供を持った後も働き続けることを念頭に置いた回答が多く見受けられました。また、「日常における仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度」についての希望を聞いたところ、「家庭生活を優先」が53.0%で最も高くなりましたが、一方で、現実について聞いたところ「仕事を優先」が51.8%で最も高くなっており、理想と現実にギャップがあることが窺えます。

ワーク・ライフ・バランスを推進することは、プライベートの充実により仕事へのモチベーションが高まる、作業効率が向上する等、個人だけではなく企業にとってのメリットももたらします。自社に合った取組を実施するために、ヒアリングやアンケート調査を実施することなどにより、特定の人々だけでなく全ての社員の状況や働き方への希望を把握することも重要です。社員のニーズを知ることは、経営層とのギャップの解消にもつながるでしょう。

※内閣府「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」(P65、P71～72 参照)

[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/r02/kokusai/pdf\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/r02/kokusai/pdf_index.html)

---

本メールは送信専用メールアドレスから配信されております。

このまま御返信いただいてもお答えできませんので御了承ください。

配信中止はこちらから

<https://nmg.cao.go.jp/cao007/unsubscribe.php>

配信先変更は上記により配信中止の後、こちらから新しいアドレスで登録

<https://nmg.cao.go.jp/cao007/subscribe.php>

バックナンバーはこちらから

<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/backnumber/index.html>

このメールマガジンへの御意見・御要望はこちらから

<https://form.cao.go.jp/gender/opinion-0086.html>

内閣府「仕事と生活の調和」推進サイトはこちらから

<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html>